

 <p>氏名 北山 哲也 年齢 45歳 所属 甲斐リハビリテー ションクリニック</p>	 <p>氏名 名取 大輔 年齢 40歳 所属 巨摩共立病院</p>	 <p>氏名 平賀 篤 年齢 36歳 所属 帝京科学大学</p>	 <p>氏名 古屋 伴仁 年齢 44歳 所属 韮崎市立病院</p>
<p>山梨県理学療法士会において、会員の啓発と質の向上は極めて重要であり、充実した卒業教育を図っていき、職能団体として地域で貢献する為には、組織体制の強化が必要です。</p> <p>今後の運営に関しては、支部化や委員会などを設けて役割を明確にし、情報伝達を密に行うなどの工夫が必要です。また、他団体と連携を図りながら、その仕組みを明確にし、成果を出していく必要があります。山梨県理学療法士会は会員のために存在します。そのために、理事として皆様の声を届けるとともに、10年後先を見据えた健全な運営がなされているかということとを議論していきたいと思っております。会員の皆様が活躍できる職域拡大を実現していけるように力を合わせて進めていきたいと思っております。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。</p>	<p>3期目の理事に立候補させていただきました名取大輔です。</p> <p>昨年度までは学術研修局理事として学術研修会及び委託講習会の運営に携わらせて頂きました。</p> <p>私たち理学療法士の質の向上、その柱である臨床力の向上に少しでも貢献できるよう、より臨床に活かせる内容でより多くの皆様に参加していただける学術研修会や委託講習会を追求していきたいと考えております。</p> <p>これまでの経験を生かし、微力ではあります。理事として引き続き本会のお役に立てればと考え、再度立候補させていただきました。会員の皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>指定規則の改正や診療報酬改定など理学療法士を取り巻く環境は日々変化し続けており、社会の中での理学療法士という立ち位置を安定させるためには、臨床力だけでなく、専門職としてのエビデンスの構築や地域社会への発信・連携など多角的な結果が求められています。そのためには士会員一人一人が研鑽を続け、質の高い理学療法を提供することが何より重要と考えております。</p> <p>昨年度までは学術研修部長として学術研修会の運営に携わらせて頂く中で、理学療法士の基礎となる臨床力の向上に貢献できるよう活動して参りました。臨床力だけでなく研究や教育などの向上に少しでも貢献したく、今回理事に立候補致しました。理学療法士が社会でより活躍できるような基盤を作りたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。</p>	<p>この度、引き続き県士会活動の運営へ携りたく、理事へ立候補いたしました。理事として6年間、社会局長として委託事業部、スポーツ理学療法部に関わり、外部団体からの依頼に対応してきました。理学療法士が必要とされていることを実感する一方、まだまだ理学療法士の知名度低さ、また役割や能力が示しきれていないとも感じています。健康増進や障がい予防、またスポーツ分野への活動なども行い、社会貢献を果たし、理学療法士が地域社会に必要とされ、より活躍できる環境をつくりたいと考えております。より良い士会活動となるために、微力ではありますが士会員の皆様と共に士会運営に取り組んでいきたいと考えております。</p>

 <p>氏名 小林 司 年齢 40歳 所属 石和温泉病院</p>	 <p>氏名 菊池 信 年齢 40歳 所属 山梨リハビリテーション病院</p>	 <p>氏名 大西 正紀 年齢 44歳 所属 甲州訪問リハビリテーション</p>	 <p>氏名 小林 伸一 年齢 59歳 所属 甲府共立病院</p>
<p>私は、副会長と平成30年度新規創設された山梨県理学療法士会常設委員会・山梨県リハビリテーション専門職団体協議会担当理事を務めてまいりました。地域で活躍できる理学療法士の数、質の担保を目的に地域支援等推進委員会、災害対策委員会、訪問リハ委員会、認知症対策委員会、特別支援教育委員会、がんリハ推進委員会と連携を図ってきました。また、協議会事務局としては山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士会と肩を並べ、県からの委託事業にも積極的に取り組んできました。さらに来年度には協議会で開催する3士会合同学会大会が予定されます。来年度もこれらの保健福祉事業等に携わらせていただきたく、今回立候補させていただきました。どうかご支援の程よろしくお願い致します。</p>	<p>引き続き山梨県理学療法士会の理事に立候補をさせていただきました。現在、学会大会局長としてまた、第3回山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会の実行委員長として活動させていただいております。今回は我々の士会が担当幹事となりますので、学会の企画・運営に対する準備を中心に活動しております。</p> <p>山梨県理学療法士会は学術団体です。一人一人が自己研鑽を積み、生涯学習を続けることが、個々のスキルアップだけではなく、士会全体の士気の高まりや底上げにつながると 생각합니다。</p> <p>継続して理事になった際には、本土会が学術団体として進むべき方向を示すことが出来るように尽力してまいりたいと思います。また多職種・関連団体との連携に務め、幅広い知識の共有が出来るような機会を提供できるよう、学会の運営に携わっていただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p>	<p>医療、介護の分野で私たち理学療法士を取り巻く環境は変化しています。そのような変化の中で私たち理学療法士は様々な分野での活躍が期待され、成果も求められています。変化に対応し、期待に応えていくためには理学療法士全体の質の向上、県内理学療法士の連携の強化が必要になると思います。連携の強化を図り、理学療法士同士が繋がりを持ち、病院、施設等の枠を超え、繋がりを持った理学療法の提供を実施できることが理学療法の対象となる方々によりよい理学療法の提供が行えることに繋がると考えます。また、それらを行うことにより理学療法の対象となる方々の期待に応えることに繋がると思います。それには山梨県理学療法士会全体の質の向上、山梨県理学療法士会の組織としての強化が必要になると思います。それらに対して今までの経験を活かし、微力ながら貢献できればと思ひ立候補いたします。</p>	<p>各理事・監事並びに会員の皆様の支えのもと、士会長として4期目2年間微力ながら奮闘させていただきました。多岐に渡るご協力に感謝申し上げます。この間学術団体としての研修会や県学会、理学療法・理学療法士の啓発活動、リハ専門職団体協議会の活動（訪問リハ・災害対策・特別支援教育・地域支援事業等）、ケアマネ協会との研修会など粛々と進めてきました。また、士会組織の再編、専任事務員の配置（1人）も行いました。しかし、郡内地域への支部設置、事務局業務のさらなる軽減と専任事務員の増員等改善しなければならぬ課題も多くあります。その上、次期の2年間には、合同学会大会、関プロ士会長会議、士会創立50周年式典も予定されております。課題の改善に努め、諸行事が大過なく終えられますよう引き続き微力ながら奮闘させていただきたく立候補致しました。ご支援の程、宜しくお願ひ致します。</p>

 <p>氏名 磯野 賢 年齢 51歳 所属 甲州リハビリ テーション病院</p>	 <p>氏名 有泉 静佳 年齢 53歳 所属 山梨県立あけぼの 医療福祉センター</p>	 <p>氏名 鈴木 聡 年齢 41歳 所属 湯村温泉病院</p>	 <p>氏名 三科 貴博 年齢 55歳 所属 健康科学大学</p>
<p>新型コロナウイルスの影響が世界規模となる中、医療従事者として感染拡大を防止していくことは重要である。また、外出が制限される中、高齢者のフレイルが更に進行し、深刻さを増している現状に対して理学療法士として有効な提案を行い、実施していくことが求められる。こういった活動においては理学療法士がしっかりと団結し取り組む必要がある。</p> <p>また、この地域包括ケアシステムの中で理学療法士或いは理学療法、また、県士会は、共助の部分を担当することはもちろんのこと自助・互助にもアプローチできる体制を築いていく必要がある。そのためにも県士会は機能を強化し、県市町村や関係団体との関係性を密にしながら進めていく必要がある。このような転換期においてその役割の一端を担わせていただきたいと思い理事に立候補する。</p>	<p>私はこの事務管理局局長として4年間当士会の運営に微力ながら尽力させていただきました。会員の皆様のご協力によって、当士会は少しずつではありますが、着実に前に進んでいると感じています。一方で当士会に対する外からの期待は以前にも増して大きくなっており、そのことは大変喜ばしいことですが、関係各所との連絡調整や事務処理業務の増加も著しいものとなっています。それに対応すべく非常勤ではありますが事務員を1名雇用し、会計事務所との委託契約を行い事務管理局機能の強化を図ってきました。また令和2年度は三士会合同学術集会、年明けには関東甲信越ブロック士会長会議が当山梨県で開催予定であり、令和3年度には山梨県士会創立50周年記念事業が控えております。そのような中で、より一層の発展を当士会にもたすため、本当に微力ではありますが何らかの形で協力したいと思い理事に立候補いたします。</p>	<p>2年間、理事1期目として主に福祉厚生局の活動に携わってまいりました。活動内容としては、基本的にはこれまでの局の流れを踏襲し、研修会の内容については、できるだけ会員の皆様のニーズに応えられるよう各部署と一緒に考え、実施してまいりました。報酬制度や地域活動についての情報発信はもっと工夫してできることがあり、課題も見えました。</p> <p>当士会も2021年度には創立50周年を迎え、ひとつの節目となります。今後も理学療法士に求められる社会的なニーズは大きくなるとともに質がより問われるはずですが、私は会員の皆様が各病院・施設、そしてお住まいの地域にてやりがいと自信を持って理学療法が提供できるよう少しでも力になりたいと思い、再度立候補させていただきました。何卒よろしく願いいたします。</p>	<p>この度山梨県理学療法士会理事選挙に立候補いたしました健康科学大学健康科学部理学療法学科の三科貴博と申します。山梨県内の養成校で理学療法士養成に関わって早20年。この間、理学療法士としての資質・素養について指導してきたつもりではありますが、なかなか卒業後の職業意識や職域拡大という所まで関わることはできませんでした。既に2期4年本会の理事を経験させていただいています。卒業生たちが安心して理学療法業務に専念できる環境づくりという点に関しましては、業界団体の一員としてまだまだ心許ないと自分自身に対して忸怩たる思いを抱えています。微力ではありますが最後にもう一期、本会理事として会員の皆様にお仕えする機会をいただき、本会の発展と皆様の社会的地位向上のため尽力する機会をいただければと存じます。宜しく願い申し上げます。</p>

 <p>氏名 高村 浩司 年齢 49歳 所属 健康科学大学</p>	 <p>氏名 井村 順治 年齢 44歳 所属 恵信甲府病院</p>		
<p>昨今の社会情勢の変化は目覚ましく、理学療法士を取り巻く環境においても、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を念頭に地域包括ケアシステムの構築や理学療法士数の増加に伴う質への懸念など過渡期をむかえています。今後の理学療法士の身分を担保するためには臨床、教育、研究の柱の中で質の高い理学療法を提供し他団体との連携を強固に図ることが重要と思われまます。</p> <p>一般社団法人山梨県理学療法士会の理事としてスムーズな運営の推進と日本理学療法士協会との連携を密に図るとともに、理学療法士の安定した身分確保に尽力したいと思います。</p>	<p>私は山梨県理学療法士会において平成17年度・18年度厚生部長、19年度から24年度の間、公開講座部長、そして25年度からは企画局長として主に会の企画に関する活動に関わらせていただきました。その間、様々なことを学ばせていただき、関ブロ学会や、当会として初めての全国規模の行事となった全研などの大きな行事、そして法人化と、会の拡大、成長も経験させていただきました。今後県士会としては、急激な会員増加による新たな問題への対応、また、世界的な感染拡大が続く新型コロナウイルスの問題も、医療・福祉、またリハビリテーションの分野にも大きな問題となっており、我々理学療法士も、情報社会の中での感染症対策を考える必要性が叫ばれております。県士会に関わってきた15年間の経験を活かし、課題解決のため微力ではありますが会員の皆様のためになることが出来ればと考えます。</p>		

 <p>氏名 谷村 英四朗 年齢 70歳 所属 自宅</p>	 <p>氏名 齋藤 智雄 年齢 47歳 所属 甲府城南病院</p>		
<p>私は、山梨県理学療法士会に於いて、事務局長、副会長、会長、監事として、昭和・平成・令和の37年間関わって参りました。又、一般社団法人初代会長を務めました。</p> <p>今後の1000人規模の士会運営に強い関心を抱いております。拙い過去の経験と微力ではありますが、監事として円滑な士会運営に助力できればと思い、立候補することを決意いたしました。</p> <p>何卒、ご理解の上、宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>私は、本会の監事として平成26年から3期務めさせていただきました。理学療法士を取り巻く環境は変革する中、その役割や変化のスピードも大きくなってきていると感じています。士会活動が効率的かつ適正に実施されますよう、微力ですが監事としてお手伝いをさせていただきたいと考えています。</p>		